

歯科医療費の抑制政策を抗議

良質な医療を提供する政策へ

政策部長 戸井逸美

2024年診療報酬改定に向けた議論が進められている。2月14日、厚生労働省の諮問を受けて中央社会保険医療協議会（中医協）が答申した。答申に対し、協会・政策部の戸井逸美部長が談話を発表した。概要を紹介する。



賃金引き上げは適切な評価で

2月14日中医協は、2024年度診療報酬改定について厚労省に答申し

た。今次改定では、若手歯科医師や歯科衛生士、事務職員、歯科技工士への賃金引き上げに、わずかなプラスの改定率の中から0.28%を手当てするとされたが、提供される医療の質に関係なく、医療機関の規模によって患者負担に差をつけることに合理性はない。賃金の引き上げは、特掲診療

2年の再作製禁止を撤廃すべき

中医協では補綴物維持管理料の廃止が議論となっている。単冠の金属冠だけが外された。全ての補綴物について2年間の再作製禁止を撤廃すべきである。

先発医薬品の保険外しは歯科の補綴外しにも

医薬品については、長期取替等の先発品を使用した場合、後発品との差額の一部を患者負担とする選定療養化が示された。医薬品の保険外しであり絶対に容認できない。さらなる補綴材料の保険外しにつながることを危惧される。

診療報酬の引き上げが必要

歯科診療報酬改定はこれまで、十分な財源を確保するよう、強く求める。

紙請求の継続

2/29まで届け出を

厚労省は、4月からのオンライン請求原則義務化に伴い、「紙請求」と「光ディスク等を用いた請求」について、具体的な取り扱いを通知した。紙請求については、4月以降も紙請求を継続する場合、2月29日までに届け出る必要がある。2月15日付4面で詳報。該当の先生はぜひ確認されたい。

阪神・淡路大震災メモリアル集会 主催者挨拶

1月17日、阪神・淡路大震災29年メモリアル集会を主催した復興兵庫県民会議代表委員の畔布和隆氏の主催者挨拶を2回連載で紹介する。今回は最終回。

我慢の思考が根深く

被災者も含めて国民の中に、災害は仕方がない、我慢するしかないとの志向が根深く存在する。政府や自治体は、被災者の人権、生存権が脅かされていること、そし

支援制度 抜本的拡充を

閉所まで約6カ月を要した。「避難所は一時しのぎの場所ではない」との認識が必要である。

異常気象発生の高まり

近年、国内外の水害、猛烈な台風、熱波などの異常気象による自然災害は地球温暖化と密接な関係があると考えられている。異常気象の大半は、偏西風の蛇行や台風など

大阪の歯科医療機関でも トラブル「あった」62% 保団連10月以降のマイナ保険証トラブル調査

全国保険医団体連合会（保団連）が実施した2023年10月以降のマイナ保険証トラブル調査（最終集計・1月31日）には、41保険医協会・保険医会（38都道府県）から8672医療機関が回答を寄せた。このうち大阪府歯科保険医協会（以後、当会）の会員からの回答は、275件。10月以降のトラブルについては171件が「あった」、104件が「なかった」と回答した。当会会員では62%にトラブルがあったことになる。当会会員から寄せられたトラブルの内容・状況を紹介する。

支払いに関わるトラブルも

「該当の被保険者番号がない」37件、「資格情報の無効がある」52件、「名前や住所の間違い」36件、「名前や住所が●で表記される」106件との結果だった。これらのトラブルも受付業務に支障をきたし大変な問題だが、「負担割合の齟齬」19件、「限度額認定等に誤りがあった」8件などは、支払いに関わるトラブルであり、患者との間に不信感を生むことにつながる。

6月調査と変化ない

保団連の継続的なアンケート分析によれば、6月調査時点からほとんど変化しておらず、総点検後も改善が見られない。

トラブル対応は現行の保険証

トラブルへの対応については、125件が「その日に持ち合わせていた健康保険証で資格確認をした」としている。

重大な情報漏洩にも

そのほか、「他人の情報がつぶつけられていた」3件、「誤った医療情報がつぶつけられていた」5件など、重大な個人情報

専門家は、日頃からの備えによって防災・減災についての科学的知見を希望して進む必要がある。

抜本的拡充の運動を

避難所の環境改善をはじめ、生活再建支援金上限の引き上げ、支援金の対象を半壊や一部損壊にも拡大し、国庫負担割合の引き上げなど、自然災害被災者への支援制度の抜本的拡充の運動を進める必要がある。

人間の活動が環境を悪化

異常気象には人間の経済・生産活動が大きく影響している。

歯界

「論破よりグレイデー」という記事が目がとまった。

ジャーナリストの堀潤氏へのインタビューで、物事を単純化したり、他者を一方的に言い負かしたと主張したりする最近の風潮に違和感を抱き、一石を投じる「論破禁止ゼミ」を企画したとの記事だった。

白か黒か、善か悪か、など単純に判断できない事は多い。立場が変われば見方も変わる。物事を二極化し判断を煽る手法は独裁者の常套手段である。単純化されたフレーズを繰り返して聞かされる事で群衆心理がコントロールされてきた負の歴史に学ぶ必要がある。

単純化された方が判断はし易い結論が出る方がスッキリするが、検証された事実を積み重ねながら対話し最善の道を模索する事が大切だ。対立した意見に対して、同感（シンパシー）は出来なくとも、共感（エンパシー）する所は探せるはずだ。相手の立場に立って考え議論を深めるからこそ、多様性への理解が進むのではないだろうか。

2024年診療報酬改定

実施 6月1日です。

説明会のご案内は3/5付をご覧ください。